



第37回 縮小社会研究会

東京での研究会です。登録文化財の島藺邸で開催します。

時：2016年12月11日（日）13時15分より

所：島藺邸（東京都文京区千駄木3-3-3）

http://www.enjoytokyo.jp/museum/spot/l_00053283/map.html

参加登録：会場の都合で定員は30名です。

会のホームページの案内、または下記より

http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf_idstr=XrNYRXbSTZvpMweNtCn4M6fy908

参加費：会員は無料、非会員は500円



講演1. 13:15-14:00 「縮小社会における自動車文化」

五十嵐敏郎（金沢大学非常勤講師、もったいない学会理事）

1908年に始まった自動車文化は、功罪両面で社会に大きな影響を与えた。フォードは大量生産システムを、GMは欲望を喚起する手法を確立した。現在も8つの原罪を抱えている。縮小社会が必然とされる将来、私たちは自動車文化とどう向き合うべきなのか。



講演2. 14:05-14:50 「水害の効果的な減災のために」

梶原健嗣（愛国学園大学・准教授）

水害の効果的な減災のためには、科学的に合理性を有し、実現可能な指針を定めなければならない。そのための第一歩は、今起きている水害がどのようなものかを、的確に把握することである。しかし、現在の治水策は、この点で心もとない。昨年の鬼怒川水害など、現在の水害をふまえ、この問題を考えてみたい。



講演3. 14:55-15:40 「資源はナショナリズムの対象か？地質学から考える」

伊藤谷生（千葉大学名誉教授）

資源は長い地球史のなかでそれぞれ特殊な地質学的な場に偏在して形成されてきた。このような本質をもつ資源をナショナリズムの対象としてよいのであるか。グローバルな縮小社会を目指すうえで地質学の立場から考えてみたい



講演4. 15:45-16:30 「食料危機の時代に最も有効なエンジンと燃料」

近藤恭彦（福島県立葵高校教諭）

バイオエネルギーは、再生可能なエネルギーの中で、畜エネルギーの効率の最もいいエネルギー源である一方、食料と競合する。しかし、食糧問題とエネルギー問題を一挙に解決する昔ながらのバイオエネルギー活用方法がある。・・・更に、高校1年生に『経済成長とは？』を講義した報告もする。



自由討論 16:30-17:00

懇親会：17:30-19:30

(3000円ぐらい)

一般社団法人 縮小社会研究会

〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前町21 石川ビル305

e-mail: jimukyoku@shukusho.org

HP: <http://shukusho.org/>